

糟屋郡地誌に見る志免の商店街

海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群 (28)

『糟屋郡地誌』は香椎高等女学校地理教室編、昭和十二年（一九三七）十二月二十日、香椎高等女学校の発行です。ガリ版刷り、一七三頁の非売品。香椎高女は現在の香椎高校の前身の一つです。

ここに海軍燃料廠採炭部「本部」付近の詳細な地図「炭坑聚落の中心五坑通」が記録されています。文字が読みにくいので、重ねて書き添えておきました。

「炭坑村志免」と題する項目には次のようにあります。

「昭和十年来、志免村の人口は一万九千五百人、内、本籍人口は四千

六百七十七人にして、残り一万四千八百十九人が外来者にして、本籍人口の約三倍に相当している。此の關係は炭坑地、新興の商工業都市に見る一般的傾斜である。志免村に於ける炭坑関係の人口を見るに、粕屋炭坑三千二十一人、海軍五坑四千二百三十八人、亀山炭坑三千五百八十八人、合計一万八千四十七人に達し、更に之に附随した商工業者を加えた場合、志免村が全く炭坑に依つて人口が膨張した事実が明白となる。」

商店街については、「海軍五坑に属する五坑本通を中心として発達した聚落は、他の炭坑聚落に比し最も

整頓されたものである。五坑本通りの広場を中心に、市場を始め其他の商店が集り、一つの商店街をなし、其の周囲に官舎、役員舎宅、鉱夫舎宅が分布している。朝夕の買物時の市場・広場の混雑は一通りでは無い。」

地図には高級舎宅、舎宅、納屋が区別されています。納屋が一般鉱夫の居住地域に当たります。

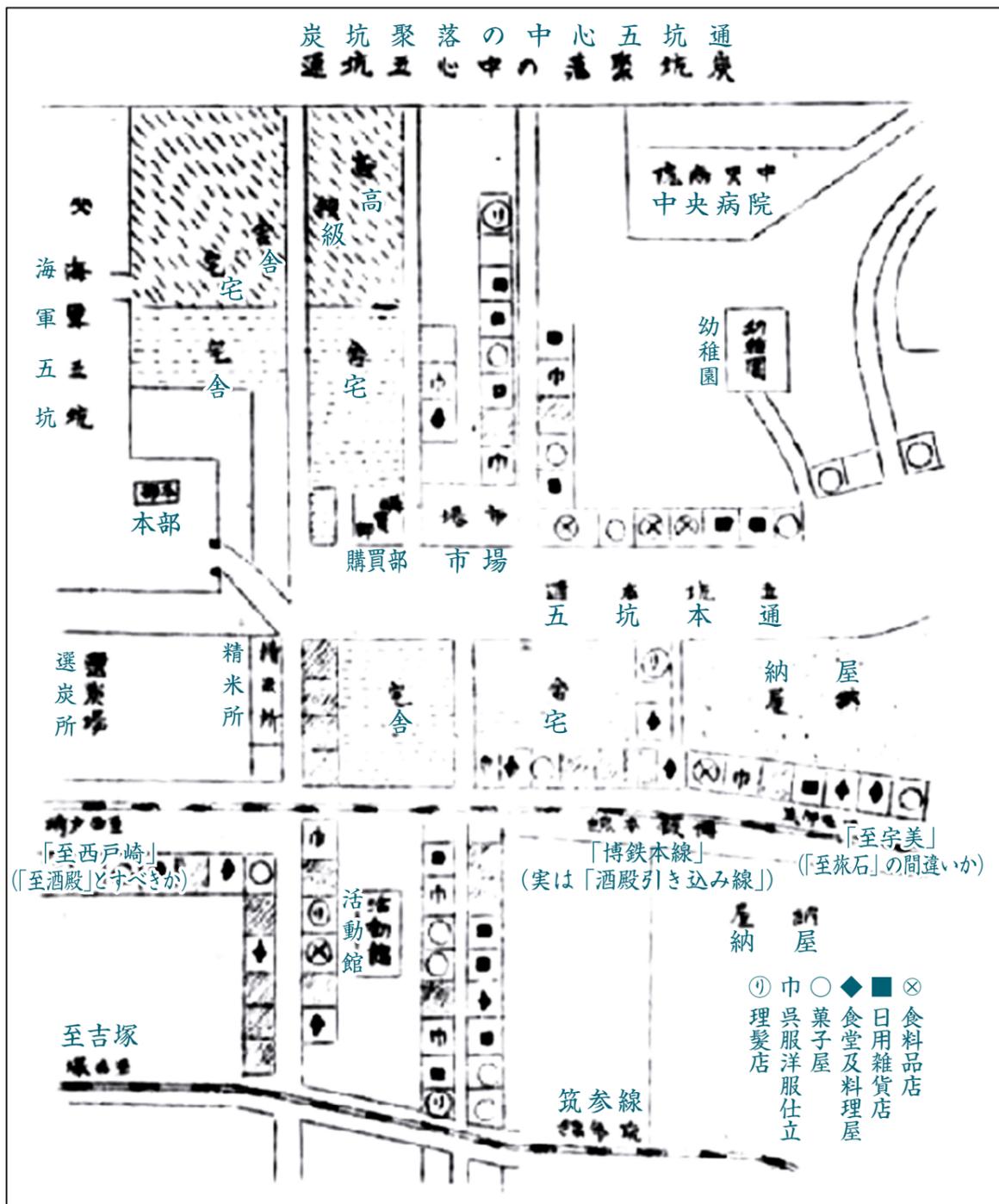
「海軍炭坑で知られた須恵村」の記事はこうです。

「明治二十二年七月、新原の北西に第一、二坑の開坑となり、続いて東方台地に第三坑開坑されるや、俄か

に活気を呈し、純農村は変じて炭坑村として発達の一途を辿る。其の後、第一、二坑は廃坑となりしも、明治三十四年第四坑開坑され、更に旅石に六坑も出来、今日では炭坑関係の人口は約五千に達し、全村人口の半ばを占め、炭坑村としての特色を發揮している。

近時、海軍五坑の発展により採炭部の中心が西部志免村に移動しつつあるも、坑区の分布から見て将来の希望は未だ十分にある。」

須恵町に商店街が発達することはありませんでした。その理由は同じ海軍炭坑でも「五坑」の果たした役割が大きかったことに求められるようです。



※地図には間違いがあります。博鉄本線は多湾鉄道汽船の本線の意味ですが、実は酒殿駅の引き込み線です。したがって右側の「至宇美」は「至旅石」、左側の「至西戸崎」は「至酒殿」となります。

なお、下の線路「筑参線」は筑豊参宮鉄道の略で、後に廃線となった宇美勝田線のことです。